



奈良県内経済情勢報告

(令和6年1月判断)

1. 総論

【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (5年10月判断)	今回 (6年1月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回 (5年10月判断)	今回 (6年1月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇や人手不足の影響等に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向の高まりによる購入点数の減少などにより、足踏みの状況にある。
- ・コンビニエンスストア販売は、インバウンドなどの需要に加え、顧客の購買意欲に大きな低下は見られず、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドの増加などにより、医薬品や化粧品を中心に、好調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、物価上昇に伴う園芸用品への支出の低下などにより、低調に推移している。
- ・家電大型専門店販売は、暖冬の影響から季節商品が伸び悩んだものの、全体としては、緩やかに持ち直しつつある。
- ・乗用車新車登録届出台数は、小型車で前年を下回っているものの、普通車・軽自動車では前年を上回っており、全体では前年を上回っている。
- ・観光動向は、インバウンドや国内観光客の増加などにより、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- | | |
|---|--------------|
| ➤ 客数は前年を上回っているが、足元では消費者マインドの低下が感じられる。 | (百貨店・スーパー) |
| ➤ 価格高騰の影響などにより、客数は回復しておらず、購入点数も減少傾向にあり、消費者の購買意欲の低下や節約の姿勢を感じている。 | (百貨店・スーパー) |
| ➤ 価格高騰は続いているが、日常使いのお客様が多いこともあり、購入点数の増減はほとんどなく、購買意欲が低下している印象はない。 | (コンビニエンスストア) |
| ➤ インバウンドは医薬品や化粧品を中心に売行きが好調である。また、国内客でも風邪などが流行しているためか医薬品の売行きが良い。 | (ドラッグストア) |
| ➤ 物価上昇の影響により、園芸用品等で買い控えの動きが強まっていることなどから、売上は前年を下回っている。 | (ホームセンター) |
| ➤ 今期は暖冬の影響から、エアコンやヒーター等の暖房器具が伸び悩んだものの、白物家電は想定よりも好調に推移した。物価上昇による影響から価格の安い型落ちの商品が好まれる傾向が続いている。 | (家電量販店) |
| ➤ 納車の長期化は継続しているものの、消費者の購買意欲に落ち込みは見られず、売上は前年を上回っている。 | (自動車販売店) |
| ➤ 国内観光客が好調で、インバウンドも堅調に推移していることから、単価・客数ともに前年を上回っている。レストランにおいても、朝食を中心に好調である。 | (宿泊) |
| ➤ 国内観光客は日帰り・宿泊ともに客数は2019年比で増加している。インバウンドは中国人観光客が戻り切っていないものの、アジア圏や欧米からの観光客が増加しており、日帰り客数は2019年比で増加している。 | (観光関係団体) |

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数は、「電気機械」「汎用機械」などが上昇しているものの、「金属製品」「プラスチック製品」などが低下している。

なお、企業からは、自動車関連において生産が回復しているとの声が聞かれる一方、食品値上げによる消費者の購買意欲低下の影響を受けているとの声のほか、中国の景気減速等に起因して生産計画を見直すとの声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 原材料価格の高騰分を販売価格へ転嫁したものの、内容量を減らした低価格商品のほか、国産材料を使用した高品質の商品の販売数量が伸びており、生産数量は前年同期を上回っている。(食料品)
- 自動車生産における半導体不足の状況が改善し、国内自動車メーカーからの部品受注はほぼ回復している。一部、自動車出荷停止の影響で減産しているものの、総じてみれば生産ラインは高い稼働率を維持している。(輸送機械)
- 海外向けを中心とした自動車部品について、販売価格値上げ前の駆け込み需要の反動等で生産数量は減少していたが、取引先の在庫調整が進むことにより、今後は緩やかに回復していく見込み。(輸送機械)
- 産業用機械部品について、自動車向けは一定程度の回復をみせているものの、自動車以外の工作機械向けは引き続き全体的に低迷しており、生産・販売動向は横ばいの範囲である。(汎用機械)
- 食品値上げによる最終消費者の購買意欲に落ち込みがみられ、生産数量は前年同期比で5%程度減少している。(その他製造)
- EV向け機器の受注残について、海外企業から受注台数の減少変更依頼や納期未確定を継続する依頼があり、当該事業関連の伸びに陰りがみられる。(生産用機械)
- 半導体部門において、中国の景気減速を背景として、中国・台湾メーカーを中心に納期先延ばしの相談があり、複数の案件で生産計画を見直すこととなった。また、電子部品部門でも商談が延期となるなど足下の受注状況は低調である。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っており、持ち直しつつある。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和3年4-6期調査以降11期連続の「不足気味」超となっていることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- バスガイド不足解消に向け、1人のバスガイドが複数の観光バスを同時に案内するリモートシステムの試験導入を行った。問題点を洗い出し、今春からの本格導入を目指している。(陸運)
- 生産部門の現場作業員が不足しており、常に募集をかけているものの、なかなか人が集まらない。特に夜間の作業員が慢性的に不足している。(その他製造)
- 採用体制が整っておらず正社員の獲得に苦労しており、効率的に人材を確保できるため派遣を活用している。価格転嫁が順調に進み、増収増益で推移していることから、令和5年度の賃上げ率は過去最大となり、賞与も増額した。(食料品)
- 万博開催に向けた建設工事に人員を要しているため、通常の事業については賃金を上げなければ人材確保が難しい。(建設)
- 有効求人数が減少傾向である要因として、経済社会活動の正常化が進んだことに伴い、多くの求人が出されたことに対する反動減があったほか、特に製造業の中小零細企業において、原材料価格の高騰などによる収益圧迫で、現在抱えている従業員と新規採用者の両方の賃上げに対応できず、求人を控える動きがあった、という2点が挙げられる。(公的機関)

■ **設備投資** 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和5年10~12月期

5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和5年10~12月期

5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 新設住宅着工戸数で見ると、持家・分譲において前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ **公共事業** 前払金保証請負金額(累計)で見ると、国、独立行政法人、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **企業倒産** 倒産件数は足下で前年を上回っている。負債総額は前年を上回っている。

■ **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(令和5年10~12月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「上昇」超となっている。先行きについては、6年1~3月期は「下降」超、6年4~6月期は「上昇」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課
TEL 0742-27-3162 (直通)